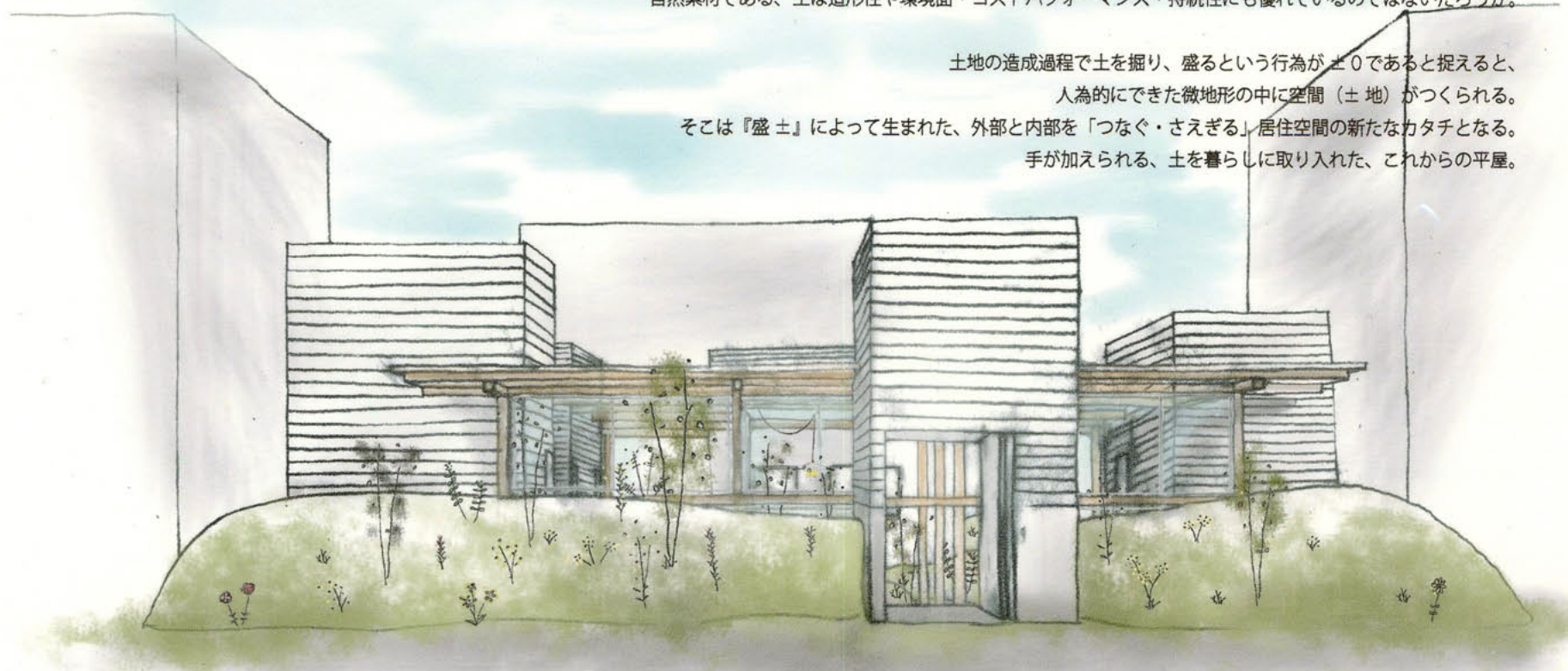


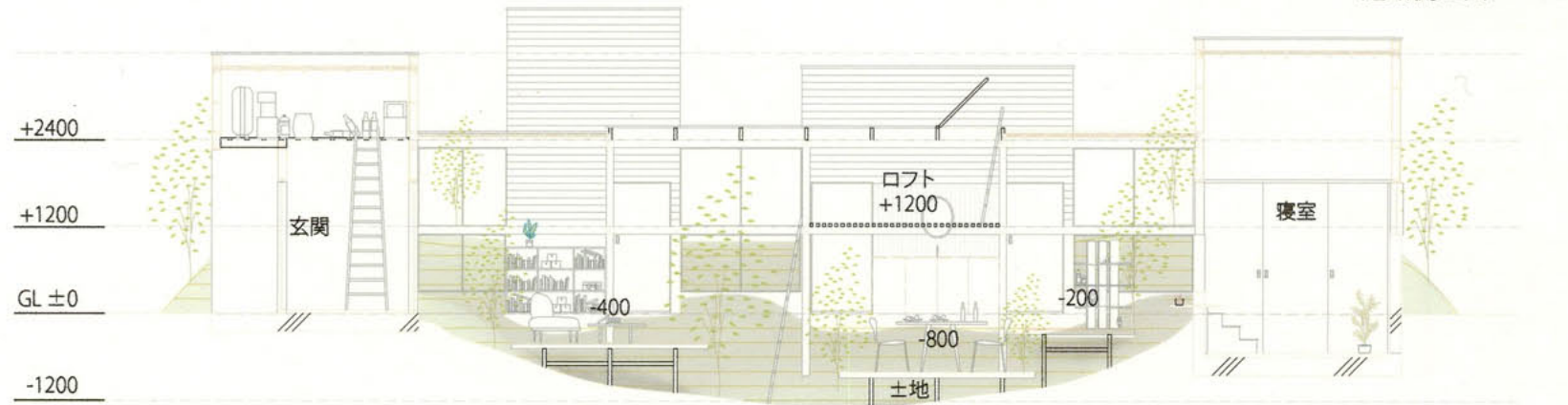
盛土の平屋

家と土は密接な関わりをもつ。土間や庭、内外が入り混じる空間は戸建て住宅の暮らしを豊かにする空間要素である。自然素材である、土は造形性や環境面・コストパフォーマンス・持続性にも優れているのではないだろうか。

土地の造成過程で土を掘り、盛るという行為が±0であると捉えると、人為的にできた微地形の中に空間（土地）がつけられる。そこは『盛土』によって生まれた、外部と内部を「つなぐ・さえぎる」居住空間の新たなカタチとなる。手が加えられる、土を暮らしに取り入れた、これからの平屋。

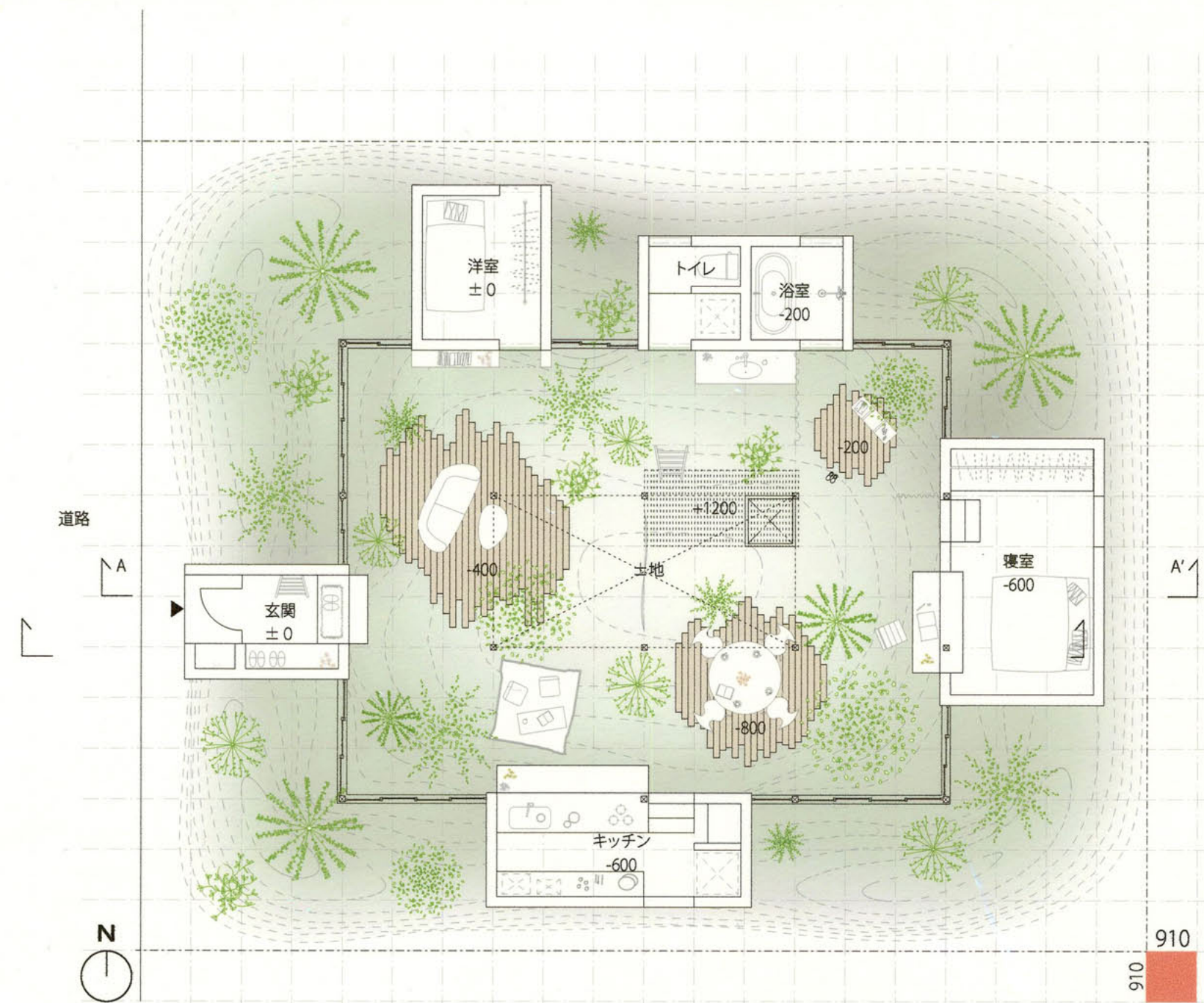


道路側立面パース



■ひとつながりの地面：外部から盛り土を介して内部へつながる、つながりのある自由な断面を作り出す。

A-A'断面図 1:100



■住箱と土地：設備やシェルターを担う住箱と誰かと時間を共有して過ごすワンルームの平面構成

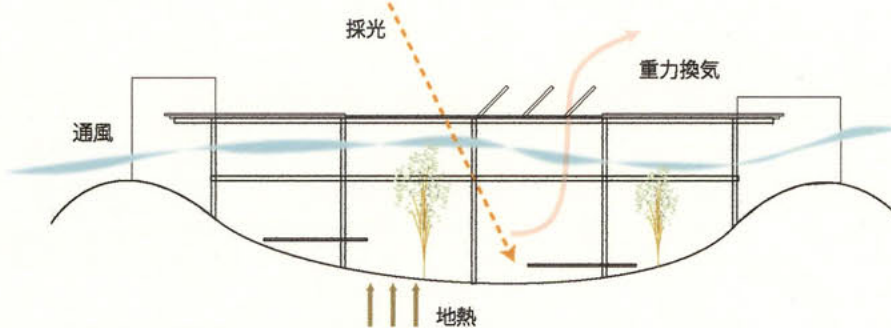
平面・配置図 1:100

■盛土/GL±0がつくる新たな土地と暮らし



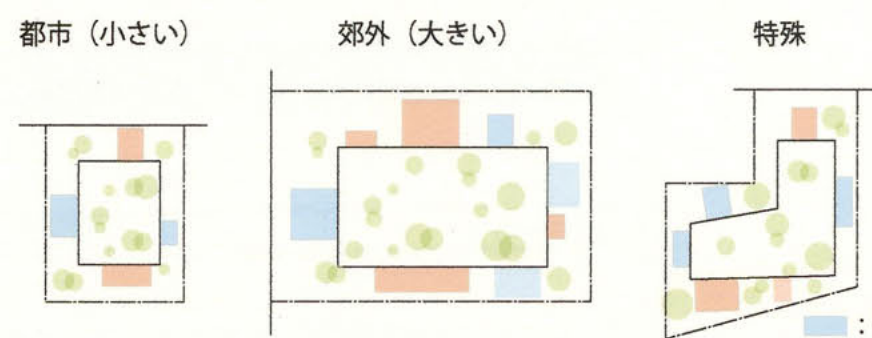
盛る土と掘り出す土を±0とし、なるべく残土を発生させない。また、住人が土を盛り局所的に農業やガーデニングを楽しむ。

■土地/環境を受け入れる断面構成



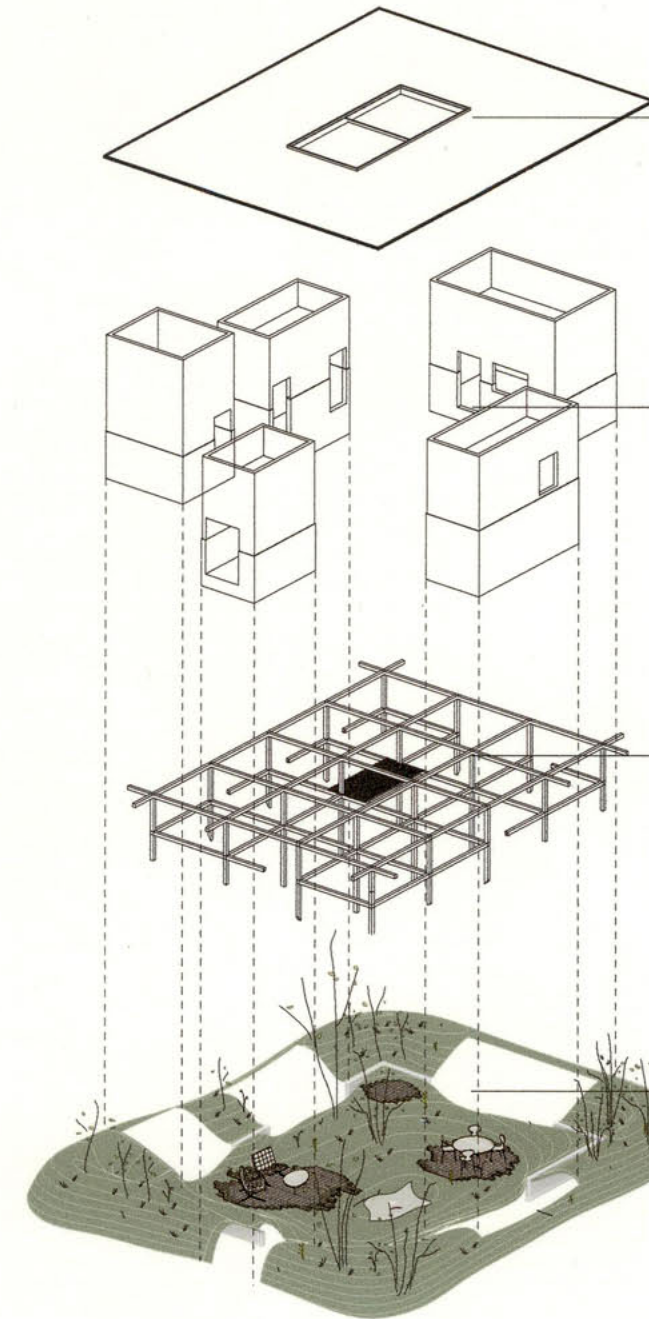
断面方向の通風に対して1200mmの開口をもつ小屋裏、地熱・採光によるエネルギーの移動はトップライトを設けた。

■住箱/様々な敷地、ライフスタイルの変化にも対応



住箱ユニット組み合わせにより、どのような敷地にも対応可能でライフスタイルの変化に合わせて箱を増減し柔軟に対応出来る。

■全体構成 / 4重層の平屋



1. 緩やかにつながるフラットな屋根

屋根はトップライトを備え平坦な敷地では屋上で、住まい手が活動できるスペースとして利用できるよう緩勾配屋根とする。

2. 柔軟性のある箱ユニット

プライベートな空間、水回りやキッチンは家族の構成や居住環境により変化しながら「コアユニット」となり、軸組架構の周囲に構造のフレームとして配置する。

3. 環境をまとう構造体

内部空間化するための柱・梁で構成された木造架構を組む。木造軸組のスケールに、還元することでそこに空間的ヒエラルキーをつくり、ヒューマンスケールになる。

4. 盛土がつくる自由な平面・断面

敷地に居住空間のFLを設定して土を掘る。残土を空間周囲の盛り土として配置することで、「床・カベ・庭がひと続き」のランドスケープのような空間が形成される。



・庭と床のワンルーム：庭を広げ、貼り床を必要最低限に抑える。ワンルームの中に庭と床の境がなくなり、多様な生活の風景が点在する内部空間を作り出す。

内観パース